



自己紹介

理事 寺尾 嘉泰



理事の自己紹介をニュースレターの発行毎に順次掲載しており、今回は私こと寺尾嘉泰の自己紹介をさせていただくことになりました。私は定年退職後 RASA-J

a p a n のお手伝いをする以前より、他の NPO の運営に携わっておりました。それは名古屋市の外郭団体の支援により設立した NPO で、高齢者等の I T 弱者にパソコンの啓蒙、普及、ホームページ作成のサポート等を目的にしたものです。その NPO に RASA-J a p a n よりホームページのことで相談に来られ私と仲間と RASA-J a p a n の事務局に訪問したのが、私が RASA-J a p a n の活動を知った最初の機会でした。

訪問時に藤井理事長夫妻よりフィリピンの教育環境の劣悪な現状とその改良のために RASA-J A P A N は学校建設、奨学支援、栄養失調児童の救済等の活動をしていることをお聞きし素晴らしい NPO であることを知りました。

中でも毎年大学生等を主な構成メンバーとしたボランティアをフィリピンに送りホームステイをしながら学校建設現場の手伝いをしていることそして参加者が一応に日本では当たり前のことがフィリピンではそうではないことの現状を知り、人間的に大きく成長して帰国してその経験をその後の人生に生かしているとの説明を聞き感動を覚えた記憶があります。

現在世界各地で起きているテロ事件等の紛争の原因の一つは子供の学校教育不備に起因していると考えておりましたので、その意味でも RASA-J a p a n の活動は紛争解決と世界平和への貢献の一助になっていると共感しました。

その後、しばらくして RASA-J a p a n より経理を主としてお手伝いしていただきませんかとのことでした。

RASA-J a p a n の創立者のシーランド神父が教鞭をとっておられた南山出身であること、毎年の学校建設のボランティアに参加している多くの学生が後輩であるということも何かのご縁と思いお手伝いさせてもらうことにしました。

学生時代の部活でキャンプファイヤーをしたとき、YMCA の先輩が将来はこのファイヤーのように周りの人を明るく照らし温かくするような人になってくれとの話があったことを思い出し、会社人間で暮らしてきた私には今まで社会貢献らしきことを余りしてきませんでしたので、この機会に多少先輩の意向に沿ったことができるかなとも感じ、又私の座右の銘の一つに最澄の訓えによる「一隅を照らすものは国宝なり」に通じるものであると思いお手伝いすることに決めました。

又、104歳のクリスチャンで現役の日野原重明医師のエッセイを読んでもらいましたら高齢にもかかわらず多方面に積極的に活動しておられ、それが健康の維持と若さの秘訣であると知りお手伝いすることに意を強くしました。

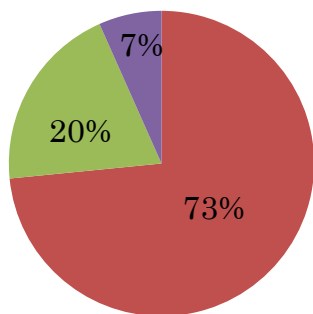
私は以前より囲碁を趣味としており、はからずも今回経理等のお手伝いをする事になり相乗効果で老化予防と脳の活性化になるのではと喜んでおります。今後は微力ではありますが、活動に熱心な他の理事さんと協力して、RASA-J a p a n の活動が世間にもっと認知され支援の輪が広がるよう、お手伝いをさせてもらうつもりでおります。

末尾になりましたが皆様これまで RASA-J a p a n へのご協力を感謝すると共に、従前に増して今後も RASA-J a p a n への惜しみないご協力をお願い申し上げ自己紹介とさせていただきます。

学校建設費の募金額 300 万円達成！

単位：円	寄付金	鉄筋資金 249 本	ブロック 3469 個	合計 円
鉄筋ブロック寄付金内訳	2,295,223	622,500	208,184	3,125,907
	73%	20%	7%	

鉄筋ブロック 寄付金費用



昨年7月から1月締め切り後も思いもかけずぞくぞくと送金があり目標300万を突破！多くの方々のご理解、ご支援のお陰です。

初ご支援の聖イグナチオ教会、吉祥寺教会、合計60万円を寄贈の方、他本当に多くの方々からご支援をいただきました。現在建設中のコロンバン学園2階建て8教室 鉄筋コンクリート造り 工費1800万円のうち500万円をRASAが負担。他は現地バランガイでは個人寄付者はノートにぎっしり1000名以上もあり、中には一人で50ペ（130円）の記録もあり現地の如何に多くの人々がこの建設を待ち望んでいたかがわかります。RASAは当初200万しかなく不足分を日本の皆様にご支援いただきました。

RASA-Japan の活動は、みなさまからの会費、寄付金によって支えられています。

寄付金額は1口1000円からです。

振込先

①ゆうちょ銀行から

郵便口座 008904-31185

振込口座名：特定非営利活動法人 RASA-Japan

②他金融機関から

〇八九《支店》普通 31185

特定非営利活動法人 RASA-Japan



建設活動修了式で、RASA-Japan へのコロンバン学園から建設支援の感謝状(右の楯)が贈られました。 ⇒

今回訪問時(2/11~28)現地は乾季で一滴の雨も降らず、日本との温度差25度以上の37~38度の炎天のもとでウィークデイは9時から4時まで建設作業に精出しました。初めての建設作業の経験、帰国反省会でどんな感想が聞けるでしょうか?楽しみです(*^_^*)新しい校舎が少しずつ出来上がっていく達成感の喜びを感じたことでしょう。詳しくは次号で!



活動報告

2015年11月～2016年3月

1. 1. 30 ボランティア活動参加申し込み締め切り 46名
1. 2. 3～10 今回から現地法人に代わりRASAがボランティア派遣事業の準備を完了した。
パンガシナン、コロンバン学園 訪問理事長が学園長、学校長とホームステイ選出、滞在スケジュール、建設業者、休日行楽のプランの打ち合わせ、契約、レストラン、ホテル、バス等の移動手段の手配と予約 現地の特殊事情に合わせ、現地人責任者が連絡や予約に必須で、宿泊予約したホテルの支配人が中継管理を引き受けてくれた。
1. 2. 6 **第1回研修会（ボランティア参加者対象）**
1. 2. 18～19 ロゴセンター クリスマスチャリティーバザー 出店 学生も応援
 1. 1. 11～14 理事長フィリピン出張 現地最終予約確認、予約金支払い、詳細打ち合わせ
 1. 1. 12 危機管理マニュアル 南山大学提出
 1. 1. 14 サウスビル小学校の栄養障害児救済事業の活動がラグナ州から優秀活動表彰される
1. 1. 30 **第2回研修会**
2. 2. 6 **第3回研修会、親睦会**
 2. 2. 11 46名 セントレア中部空港9：30出発
 2. 2. 28 18：55セントレア着 解散
 2. 2. 28 あるしゅ（自立を支援する会）助成金の決算報告書提出
3. 3. 3 RASA学生自主支援団体2012メンバーが今年のボランティアの帰国後の活動指針を決定
3. 3. 12 **帰国反省会**
3. 3. 16 中日新聞社へ取材のため訪問 帰国したボランティア4人とスタッフ
3. 2. 28～4. 1 フィリピン出張 ; 次年度栄養障害児救済事業の拡張、50人から100人へ準備と調査訪問
この事業の支援団体「手を貸す運動Ⅱ」の担当責任者と一緒に、事業地サウスビル訪問予定
来年の学校建設地とボランティア受け入れの件で、カブヤオ市の担当責任者との打ち合わせ訪問



今年のボランティアの帰国後の活動

RASA（南山大学に登録し、RASAの活動をするボランティア団体）が帰国後、各自が体験した感想をいろんな場所で発表してこの活動の素晴らしさを知ってもらいたい、自分が変わったことを他の若い人にも伝えたいという提案をしてくれ、具体的なスケジュールを計画、実行して行きます。

フィリピン2月の花



ご支援者のごこと Hotなお知らせ！

RASAに2000年以來のご支援者とお話しする機会がありこんな会話からはじまりました。「今お弁当を20個作るところなの」「ええ20個も！」「週2回ホームレスの方に届けているの。」自主的にこんな大変な活動を長年継続しておられるのを聞き、皆さまにお知らせします。お弁当を作ってホームレスの方に夕方配る活動をなさっています。「最近名古屋でも、ホームレスが増えてねえ。カイロを2個渡すと1つでいいよ。他の人にあげてと言って1つ返してきたのよ。」

「困っている人を助けたい。」と、長く活動を続けておられることを知り、皆様に是非お伝えしたくて書きました。こんな活動をしながらも、RASAも支援してくださっているとは、本当にうれしく、その姿勢に頭が下がります。心がほんわかと温まりました。

手を貸す運動Ⅱのこと

サウスビルの栄養障害児救済事業はこの団体の資金援助によります

ご夫妻は手を貸す運動Ⅱの代表者。メキシコ、フィリピン、ナイジェリア、シエラレオネ、アルゼンチンの貧しい地域の子ども達の教育資金支援等を30年間以上されています。活動資金獲得作りのため、素晴らしい自作の絵画作品を出版、販売して支援金に。フィリピンの極貧地域の給食援助にご理解を示され、Seland 神父を通して、ご援助をいただき、2年目に入ります。



手を貸す運動Ⅱ代表

佐藤正明、千鶴子ご夫妻



クリスマスパーティーを企画、貧しい子供達に校長先生が、食事とプレゼントの準備



RASA の名前は 30 年前に付けられ、活動が開始。

1996年 Seland 神父と一緒にタイに行った平子由美子さんが、その後、奨学金支援を続けられ貧しい子ども達に目をかけておられた。昨年12月に RASA の活動がまだ継続していることを知り、ご寄付をいただいた時に、RASA の生い立ちを聞くことができ、ここにご紹介する次第。上智大の学生が1981年アジアの貧困問題を考える会 RuralAsiaSolidarityAssociation を発足させた。これが名前の由来。上智大教授でイエズス会の司祭、安藤勇氏（日本に帰化）がタイの農村スタディーツアーを主催した。Seland 神父（RASA の名誉理事長）を誘って、そのグループの学生も連れて行かれた。あまりの貧困に大きな衝撃を受ける。彼らは翌年も出かけ、その活動報告を「アジアの声」に発表、そのグループの活動は大きく進展；ある学生はタイに渡り、僧侶になりそのままタイに残った。学生は定期的に集まってワークショップをする中から「アジア経済研究所」をある一人が設立。しかし後継者が社会人になると活動が消滅。1982年 Seland 神父は安藤神父と共に上智大と南山大の学生を連れて、再度タイの農村を訪問。名古屋の南山大でも、RASA の活動が始まり、貧困問題を考えるグループが、定期的に集まり奨学金支援等の活動を継続。1985年 Seland 神父が「正義と平和の会議」のため、フィリピンに行った際にスモークマウンテンを訪れた際に、「フィリピンの貧しい人々」のために尽力したいと、これが今の RASA がフィリピンで活動する契機になり、Seland 神父が現地に NGO を設立。毎年日本の学生が学校建設活動に。RASA は NGO に昨年まで資金援助を継続した。

編集後記

- ご支援者のご意見をお寄せ下さい。RASA の活動、ニュースレターのこと、なんでも結構です。皆様との交流ページを持ちたいです。
- 会費や寄付の個別ハガキのお礼状は次年度4月から廃止させていただきます。お礼状は次のレターに同封してお送りいたします。ご了承くださいませ。
- 認定 NPO 法人申請の再提出についてのお知らせ

平成25年度にフィリピンの巨大台風災害への支援をお願いしカリタス・ジャパンを通じて送金いたしました。カリタス・ジャパン（宗教法人）への寄付は宗教活動とみなされ、認定申請では汚点となり、申請を取り下げることにしました。再申請をして改めて挑戦いたします。皆様のご理解をお願いいたします。

特定非営利活動法人 RASA-Japan 理事長 藤井典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平 2-2627 TEL・FAX 052-803-1649